

考えを深める社会科学習の在り方

～逆向き設計論とリフレクションの充実を通して～

1. 設定理由

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が求められている。しかし、生徒の授業のまとめや振り返りをみると、「〇〇州のことがわかった。」「楽しかった。」といった具体性に欠ける記述や単なる感想になることが多く、理解や思考の深まりを感じるができなかった。そこで、生徒が学習内容を相互に関連付け、多面的・多角的に考察して考えを深められる社会科学習の在り方を研究したいと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

—仮説 1—

「逆向き設計論」に基づく単元計画を立て、「パフォーマンス課題」を設定することで、生徒が知識、技能を活用する場面が増え、学んだことを相互に関連付けた理解が深まるだろう。

—仮説 2—

単元の中に「リフレクション」を位置づければ、生徒が社会的事象を多面的、多角的に考察し、思考を深めることができるだろう。

3. 研究内容

○地理的分野「世界から見た日本の姿」「九州地方」「中国・四国地方」単元での授業実践

①「パフォーマンス課題」の提示と毎授業での意識づけ

②さまざまな「リフレクション」の実施

4. 結論

①パフォーマンス課題に取り組むことで、学習内容を結びつけた記述が増え、根拠をもって意見を考えたり、説明したりする力を高めることができた。

②さまざまなリフレクションに取り組むことで、多様な意見を取り入れ、自身の考えを振り返る中で考えを深めることができた。

研究主題

考えを深める社会科学習の在り方

～逆向き設計論とリフレクションの充実を通して～

1. 設定の理由

(1) 学習指導要領等から

本研究は、中学校学習指導要領の社会科第2章〔地理的分野〕の目標(2)「日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりの中でとらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地域的特色や地域の課題をとらえさせる」に関連している。特に、地域の課題をより深くとらえるためには、「地域の諸事象」を「環境条件や人間の営みなどと関連付けて」、「多面的、多角的」に考察する必要がある。そこで、グループワークや発表会を多く取り入れて意見の交流を図る必要がある。

また、新学習指導要領においては、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が求められている。生きて働く知識・技能を身につけ、それを生かしながら課題を解決していくためには、単元を通して育みたい生徒の姿を具体化した上で、授業において知識・技能を活用し、考える場面を設定することが必要である。

(2) 印教研研究主題から

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習

～自ら課題を見だし、自らの考えを表現できる児童生徒の育成をめざして～

グローバル化の進展や絶え間ない技術革新が社会を変化させる今日、一人一人が持続可能な社会の担い手として、よりよい社会の実現に寄与する必要がある。しかし、複雑にからみあった社会問題をひもとき、課題の解決策等を考え、表現することは容易ではない。そこで、学んだ社会的な事象を結びつけながら、自分の考えを深める場面の充実を図ることが必要である。

(3) 生徒の実態から (資料編 P.11)

生徒は、2017年度入学、現2年生を対象とする。入学当初のアンケートでは、自分の考えを文章で書き、発表することが好きではないと答える生徒が6割を超えていた。そこで、2017年度より、単元のまとめの「リフレクション」(学習の振り返り活動)の一貫として、学習の自己評価とともに、わかったことや考えたことをまとめさせてきた。

しかしながら、生徒のまとめを見ると、「アフリカ州のことがわかった。」「調べるのが楽しかった。」という感想のようなまとめが半数を超えており、考えの深まりが感じられなかった。つまり、学習内容をふまえて考え、意見をつくりあげ、表現することができていないのである。なお、定期テストでも、資料を活用し、考えを書く問題での無回答の生徒が多い。

背景には大きく3つある。1つは、基礎学力の問題がある。本校の実態として基礎・基本の定着が困難な生徒が多い。これまで授業後に小テストやドリル(ワーク)を用いてくり返し学習を進めてきた。しかし、意欲的に取り組む生徒は少なく、単純な一問一答のような理解に留まり、基礎学力の定着としても効果があまり感じられなかった。

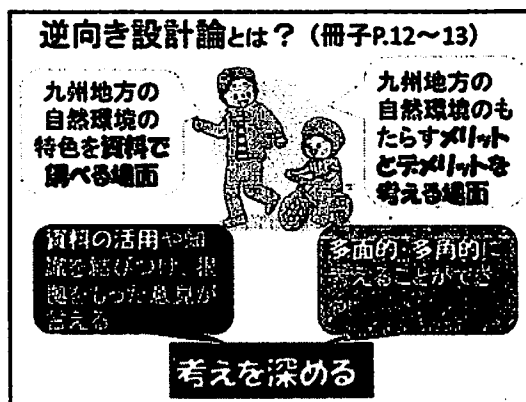
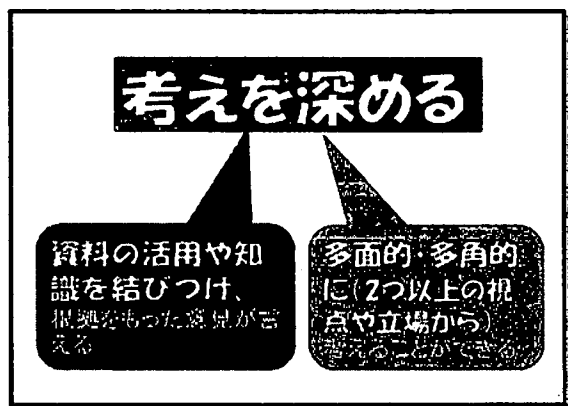
2つめは、「リフレクション」の一貫として、考えたこと、わかったことをまとめさせていたが、

学びを深めるような問いの設定やワークシートなどを用いた学習内容を振り返る工夫ができていないことにある。

3つめは、授業者が単元を通して「何ができるようになるのか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」を十分に見通していなかったことがある。つまり、1つの授業で学んだことが次の授業で学ぶ内容につながらなかったのである。

そこで、学んだ社会的事象を相互に結びつけながら多面的に考え、資料などを活用しながら、根拠をもって自分の考えを表現できる生徒を育てるために授業改善に取り組んだ。

2. 研究仮説



【仮説1】

①「逆向き設計論」に基づく単元計画を立て、「パフォーマンス課題」を設定することで、生徒が知識、技能を活用する場面が増え、学んだことを相互に関連付けた理解が深まるだろう。

※「逆向き設計論」(資料編 P.13) …通常、教科書の順番通りに授業を進めた上で、評価方法を考えがちであったものを、学習によって最終的に何を身につけてほしいかという生徒の姿を明確にし、そこからさかのぼって、単元を貫く問いを考え、評価方法をあらかじめ決定し、学習内容を設計する方法。

【仮説2】

②単元の中に「リフレクション」を位置づければ、生徒が社会的事象を多面的、多角的に考察し、思考を深めることができるだろう。

※「リフレクション」(資料編 P.14) …自分の積んだ経験を「振り返る」こと。経験を意味づけ自分の在り方を考えることで同じような状況に直面した時によりよく対処する知や術を見出す活動のこと。今回は、学習内容の振り返り、学習方法の振り返り、学習者の取り組みや理解度の振り返りなどの総称として使っている。これらの活動の中で主体的な学びに向かう意欲や思考力・判断力、表現力の育成、知識・技能の定着につながると言われている。

3. 研究内容

①「パフォーマンス課題」の提示と毎授業での意識づけ

逆向き設計論に基づき、単元計画を作成した上で「思考し、表現する力を高めるプログラム」(「見出す」、「調べる」、「深める」、「まとめあげる」)の「見出す」の場面で、以下のような「パフォーマンス課題」を提示する。

※パフォーマンス課題(資料編 P.13、14)とは、従来型の単に知識や技能に○・×をつけるテストではなく、現実にも即した形で知識や技能の活用を求める課題のこと

パフォーマンス課題の条件

- (1) 立場や役割など視点が決まっている。
- (2) 課題を進める中で育みたい生徒の力を伸ばす場面が設定されている。
※今回の場合は、「考えを深める」ために、資料の読み取りや学習内容を結びつけることが必要な問いになっている。
- (3) 単元の学習内容の中核を問う課題になっている。
※一問一答ではなく、単元で学習した内容を貫く問いになっている。
- (4) 実生活や社会での問題の理解や解決に寄与するなど課題自体に目的がある。

学習内容	中核（単元の重点）	パフォーマンス課題	生徒の姿
世界から見た日本の姿	日本には人口、産業、資源、エネルギーなどさまざまな問題があり、持続可能な社会を構築していく必要がある。	「あなたは日本の総理大臣です。日本の問題を取りあげて説明せよ。また、 <u>将来みなさんの子どもや孫が希望をもって生きていける社会にするには、どうしたらよい</u> と思いますか。解決策を考え、国民に向けて演説できるようにレポートにまとめましょう。」	社会の問題に対して考えを深める
九州地方	<u>自然環境を中核とした考察</u> 自然環境を生かした農業や観光などを進める一方で、噴火や洪水、土壌の流出などの自然災害や公害問題の解決に取り組んでいる。	「あなたは旅行会社のツアーコンダクター（旅行を企画し、運営する人）です。 <u>エコツーリズム（エコツアー）の企画者として、1泊2日の旅行の企画書をつくり、お客さんに提案</u> します。行き先を書いた上で、ツアーの内容（①なぜそこなのか、②どんなことを体験、学べるのか、③自分の思いや考え、お客さんへの一言）を書きましょう。」	
中国・四国地方	<u>人口を中核とした考察</u> 過密化する都市や過疎化する農村で見られる問題の解決には、地域の魅力や人材を生かした事業や再開発が求められる。	「あなたは、（ ）県の（ <u>過密・過疎</u> ）化対策会議のメンバーに選ばれました。（ <u>過密・過疎</u> ）を解決するためにどのようなことができるかアイデアを書きましょう。」	

単元計画（略案） 例 「九州地方」（全6時間）

プログラム	内容
見出す （1時間）	「九州地方をながめて」 「火山活動に由来する地形・温暖で多雨の気候」 ◎パフォーマンス課題を提示する
調べる （2.5時間）	「気候と地形に応じた農業・転換を求められた飴工業」 「豪雨がもたらす土砂くずれと水害・豪雨と開発がもたらす赤土被害」 「鉄鋼都市から環境都市へ環境と開発の両立」 ◎パフォーマンス課題につながるキーワードにチェックを入れさせる

九州地方の自然環境の特色を資料から読み取る場面

パフォーマンス課題を提示する場面

深める (1.5時間)	「九州地方のリフレクション」 (1) 振り返りテストを実施する(教科書、ノート使用) (2) グループで九州地方の魅力と問題を整理させる(KJ法) ◎レポートの作成をさせる(パフォーマンス課題=「エコツアーをつくろう」)
まとめあげる (1時間)	発表会 (3) ワークショップ型発表会と小グループでのリフレクション (4) 個人でのリフレクション(ループリックも活用)

「調べる」場面では、教科書の資料に加え、資料集や図書資料、映像資料を準備し、授業の中で活用し、グループ学習も行った。また、1時間の授業の終わりのまとめを書く際に、「今日学んだことの中でパフォーマンス課題の題材や具体例になりそうなものをノートや教科書にチェックを入れておこう。」と指示をした。

②さまざまな「リフレクション」の実施

(1) 単元の振り返りテスト

4時間目(九州地方)の授業の後半では、単元の振り返りテストを行った。「ノートや教科書、資料集を大いに使って問題を解くこと」と指示を出し、生徒が自分でまとめたことや教科書の資料を活用して問題を解かせた。

(2) 付箋を活用した問題点の整理

5時間目(九州地方)の授業では、付箋を活用した小グループでの問題点を整理させた。

(3) 「ワークショップ型発表会」と小グループでの振り返り

3回以上の発表、3つ以上の発表を聞き、意見や質問を交換させた。また、発表内容、発表の仕方を小グループで振り返りをさせた。

(4) ループリック(評価基準)での自己評価

自分のレポートや発表がループリックと照らし合わせてどうかを自己評価させ、グループで振り返りを行わせた。

評価のループリック

5(大変よくできました。)	3、4の点を達成しており、 ・学んだことをふまえて、2つ以上の視点で述べている。 ・資料をもとに理由を示し、具体的に述べている。 ・オリジナリティ(独創性)や工夫がある。
4(よくできました。)	・学んだことを他のことと結びつけて自分の思いや考えを書いている。
3(合格)	・学んだことを生かして書いている。
2(もう少し頑張ろう)	・学んだことと関わりがないことが書かれている。
1(まだまだです)	・文章として成立していない。書いていない。

4. 結論

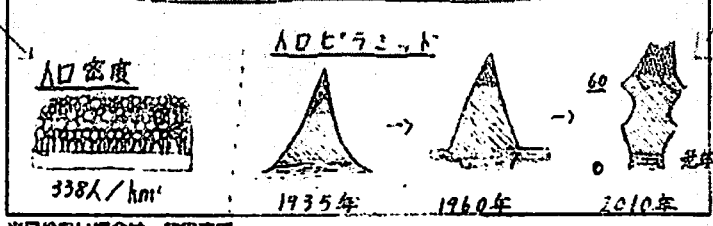
— 検証 —

【仮説1】①の実践と検証

生徒の作品1 「世界から見た日本の姿」

あなたは日本の総理大臣です。今回学習した内容から、①日本の問題（人口、高齢化、少子化、エネルギー、食料）を1つ取りあげて具体的に説明せよ。また、②この問題をどう解決していくかを図案に説明せよ。（法などをつくって提案してもよい）

日本の問題は少子高齢化がとて思われます。日本は今人口密度が高いからといって、今一番多い60代の人が亡くなってしまったら、日本の人口はさっさと減ってしまいます。なので、1つの家族で2人子どもが少なくなると、保育園や幼稚園に金がかかるとか、税金が少なくなるとか、いろいろな問題が出てきます。でも、今は保育園に入れない待機児童が多くなっているから、この法律を作るとか、保育園をたくさんつくるとか、いろいろ思っています。



日本の問題は少子高齢化だと思えます。日本は、今は人口密度が高いかもしれませんが、今一番多い60代の人が亡くなってしまったら、日本の人口は減る一方だと思えます。なので、1つの家族で2人子どもがいたら、税金が少し安くなったり、保育園や幼稚園に優先して入れさせてくれるなどの法律を作ればいいと思えます。ですが、今は保育園に入れない待機児童が多くなっているので、この法律を作るなら、保育士を増やして、保育園をたくさんつくっていいと思いました。

生徒の作品2 「九州地方」

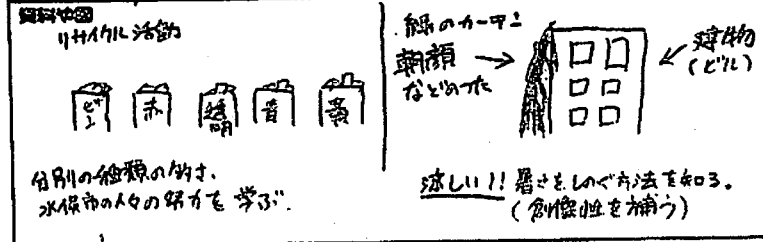
あなたは旅行会社のツアーコンダクター（旅行を企画し、運営する人）です。エコツアー（エコツアー）の企画者として、1泊2日の旅行の企画書をつくり、お客さんに提案します。行き先を考えた上で、ツアーの内容（①なぜそこなのか、②どんなことを体験、学習するのか、③自分の思いや考え、お客さんへの一言）を書きましょう。

エコツアーとは？

観光客がその地域の特色ある自然環境や歴史、文化などを体験したり、学んだりしながら、その価値を高める（大切さを感じたりする）観光の在り方。

行き先（熊本県水俣市 → 福岡県福岡市）

1日目は水俣市では、公害（水俣病）の発生から現在環境モデル都市に認定されるまでに回復した。そこで、回収するまでの道のりを体験する。大みじの分別の勉強。リサイクルを体験して、海を実感するために魚を食べる。1日目は終了です。2日目の福岡市では、九州最大の都市ということで豊かさを体験します。また、災害も多く、ヒートアイランド現象も起こっているため、貯水施設・緑のカーテンを観光します。これらの体験・学習を通して自然の大切さや重要さを学び、これからの自然に対する考え方を考えることができて、自然を大切にすることができるようになります。



1日目の水俣市では、水俣病の発生から現在は環境モデル都市に認定されるまでに回復しました。そこで、回復するまでの道のりを学習するためにごみの分別の多さやリサイクルを体験して頂き、今では安全になった海を実感するために魚を食べるなどをして1日目は終了です。2日目の福岡市では、九州最大の都市ということで豊かさを体験します、また、災害も多く、ヒートアイランド現象も起こっているため、貯水施設・緑のカーテンを観光します。これらの体験・学習を通して自然の大切さや重要さを学び、これからの自然に対する考え方を考えることができ、自然を大切にできるようになります。

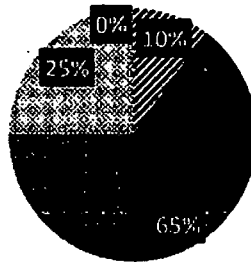
パフォーマンス課題をあらかじめ提示し、毎授業の終わりで意識させることで生徒が学習内容を結びつけながら、比較的短い時間でレポートを書くことができた。

生徒の作品1をみてわかるように、適切な資料を選び、人口ピラミッドの変化から読み取ったことから考えたことを生かした記述ができています。また、生徒の作品2をみてわかるように、「水俣病」から「環境モデル都市」への移り変わりなど学んだことを結びつけて記述ができています。

◎アンケートより

Q 根拠を持って意見を考えたり、説明したりできるようになりましたか？

- 「大変そう思う」 ▨…10%
- 「そう思う」 ■…65%
- 「あまりそう思わない」 ▩…25%
- 「全く思わない」 ≡…0%




【仮説2】②の実践と検証

(1) 単元の振り返りテスト

本校は、基礎・基本の定着が厳しい生徒も多いことから、ノートや教科書を使い、振り返りテストを行い、知識や技能の定着を図った。このことにより、教科書の資料やノートでまとめたことを普段の学習でも使う機会が増えた。

問題例

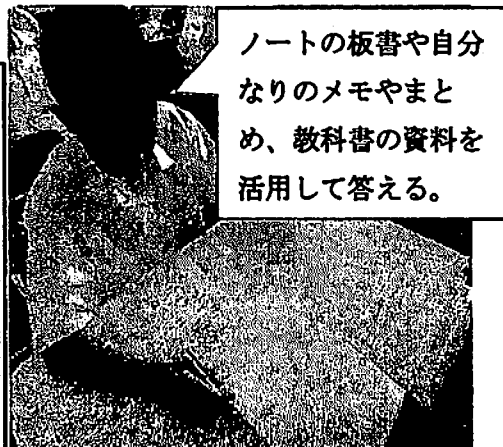
<世界から見た日本>P. 141~176
 (8) 日本の人口ピラミッドが変化
 した(青い)図を比べよ
 (9) 7-7-ア



(10) 資料水俣病に関するいくつかの文書の空欄に当てはまる言葉を語句から
 選んで答えよ。

- ・千歳店や秋田県など大都市の近くで養殖を行うことで新鮮で安く売ることが
 できる。…(9) 新鮮な魚
- ・高知県や鹿児島など遠い県産品を利用して、出荷時期をずらして魚のうりやま
 すなどを製造できる。…(10) 延命薬
- ・水俣病を予防して健康を回復し、成長してからとる魚類…(10) 水産物

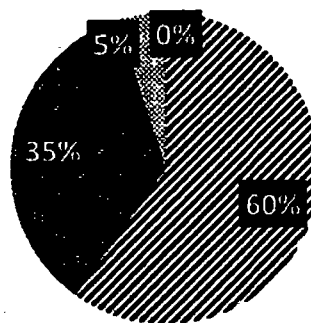
延命薬 新鮮な魚 水産物 水俣病 水俣病 水俣病 水俣病 水俣病 水俣病 水俣病



◎アンケートより

Q教科書の資料やノートでまとめたことを使う習慣ができましたか？

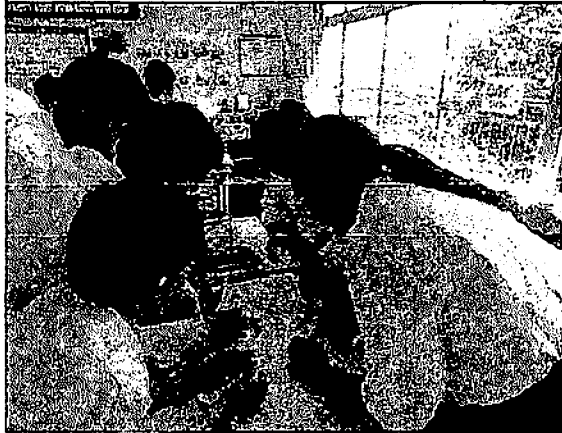
- 「大変そう思う」 ▨…60%
- 「そう思う」 ■…35%
- 「あまりそう思わない」 ▩…5%
- 「全く思わない」 ≡…0%



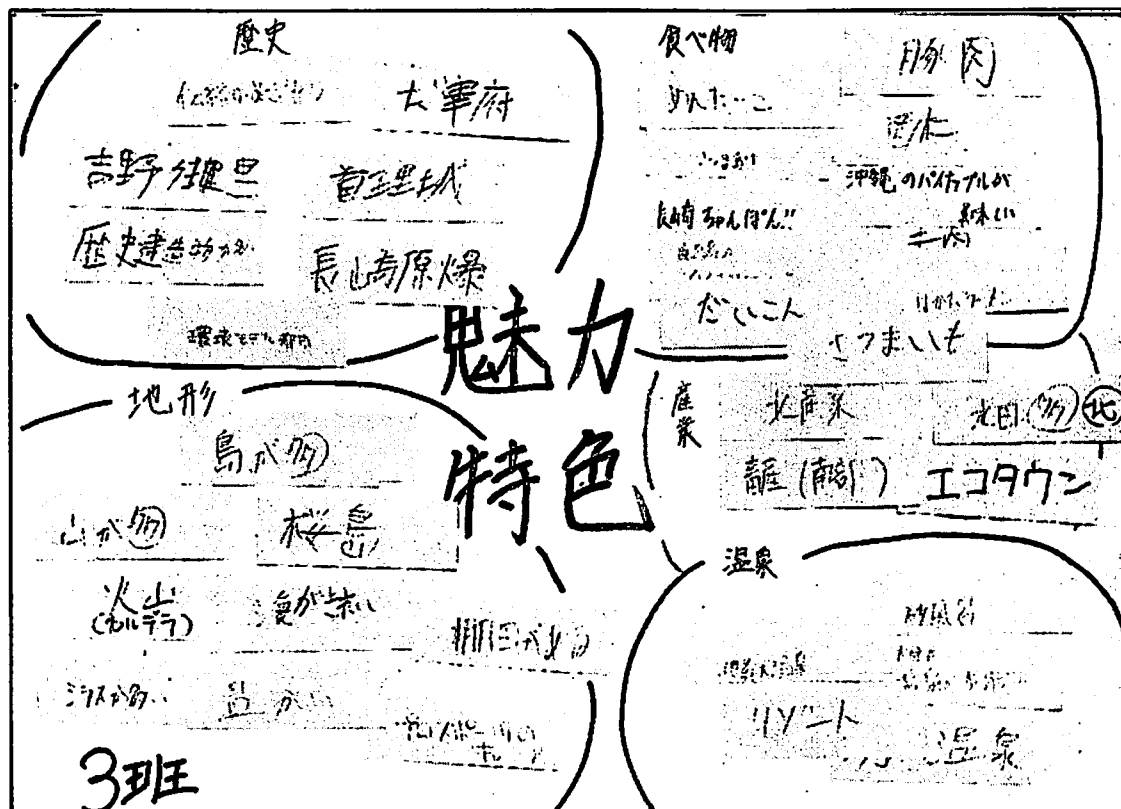
(2) 付箋や思考ツールを活用した問題点の整理

「九州地方(例)」

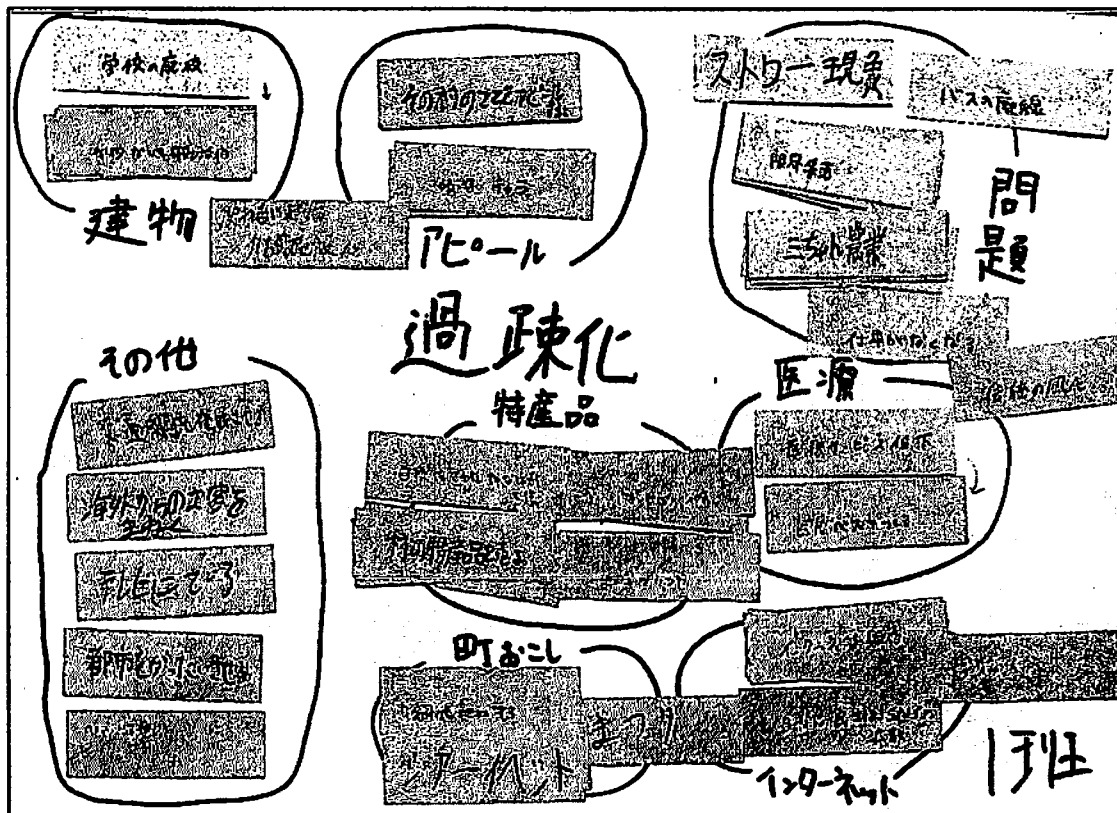
指導内容	ねらい	学習活動
「九州地方の魅力について思いつくことを付箋にできるだけたくさん書きましょう。」	これまでの学習を振り返り、九州地方の魅力を思い出す。	付箋に魅力に関わる問題をできるだけ書く。 (個人)
「出した付箋をグループ分けしてみましょう。」	九州地方の魅力を分類し、整理する。	KJ法を活用して、似たものと違うものを分ける。(小グループ)



「九州地方」



「中国・四国地方」



問題点を小グループで整理をすることで、社会的事象の関係性を整理することができた。レポートが苦手な生徒もここで出たキーワードをもとにレポートを書くことができた。

(3) ワークショップ型発表会と振り返りの記入 (資料編P. 14~16)

3回以上の発表、質疑応答をくり返し行った。そのことにより、自分の考えの不十分な視点について振り返り、他の生徒の意見を取り入れ再構築することで、考えを深めることができた。また、「自分も実際に取り組んでみたい。」や「次回はこうしてみたい。」と次の学習や生活に生かす意欲を示す生徒も多かった。「〇〇州についてわかった。」というような単なるまとめや感想が減り、発表を聞く中で生じた考えを書く生徒が多くなった。また、単元の振り返りの記述量では、0~1行が減り、3行以上が増加した。

記述量	昨年度 (世界のさまざまな地域)	今年度 (世界から見た日本の姿)
0~1行	48%	0%
1~2行	28%	18%
3行以上	24%	82%

(4) ルーブリック (評価基準) での自己評価

自分のレポートや発表がルーブリックと照らし合わせてどうかをグループで振り返りを行うことで、次のレポートの改善点を見つける生徒や他の生徒のレポートをルーブリックに基づいて良い点を見つけることができる生徒が増えた。

生徒の振り返りより抜粋

「〇〇さんの発表は、2つ以上の視点から書けていてすごいと思いました。」

「〇〇さんの対策がととてもすごいと思いました。私の対策はうまくまとまらなかったのが反省点です。」

「〇〇さんのように資料をもう少し分かりやすく説明できるように頑張りたい。」

「過疎化の対策として、エコツーリズムなどを考えましたが、発表した後の質問に上手く答えることができませんでした。次からは発表では、質問した相手も納得するような文を書きたいです。」

「ルーブリックに照らして、自分の意見をもう少し書いてもよかった。」

—成果—

- ①パフォーマンス課題に取り組むことで、学習内容を結びつけた記述が増え、資料に基づいて意見を考えたり、説明したりする力を高めることができた。
- ②さまざまなリフレクションに取り組むことで、多様な意見を取り入れ、自身の考えを振り返る中で考えを深めることができた。

その他

- ・リフレクションをくり返すことで、振り返りにかかる時間が短縮され、記述量も増えた。
- ・ワークショップ型発表やパフォーマンス課題に取り組ませることで、ペーパーテスト以外の評価の充実が図れた。

—課題—

- ①パフォーマンス課題 (レポート) の内容に関しても、添削や指導が必要である。
- ②リフレクションの時間の確保に工夫が必要である。

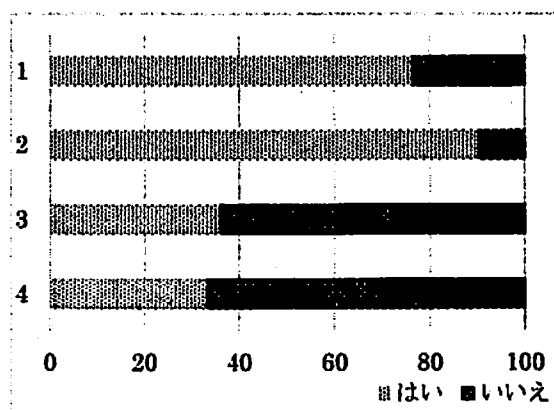
その他

- ・公民的分野などの学習がさらに進んだ時に、「過疎化」、「少子高齢化」など同じテーマでレポートを書かせたものを比較することで考えの深まりや変容がより明確に見ることができる。

資料編

●2017年度の入学当初のアンケート

- 1 「社会科は好きですか」
はい 76% いいえ 24%
- 2 「調べるのは好きですか」
はい 90% いいえ 10%
- 3 「文章でまとめることが好きですか」
はい 36% いいえ 64%
- 4 「発表することが好きですか」
はい 33% いいえ 67%



●2017年度の「リフレクション」から

生徒の実態把握するため、「リフレクションシート」を用いて分析を行った。

・「リフレクションシート」

「リフレクションシート」は、学習活動を振り返るものであり、主に、①基本的な学習内容の確認する小テスト、②学習に取り組む態度を自己評価するアンケート、③学習内容でわかったことや疑問をまとめる小レポートで構成されている。昨年度は、地理的分野の学習（「世界のさまざまな地域」）において、単元が終わるごとに行ったものである。今回は特に②と③の項目について分析する。

資料1、②質問項目「授業中やグループワークで意見を考え、発表できた。」の回答集計

単元名（実施時期）	よくできた	だいたいできた	あまりできなかった	全然できなかった
アジア州（10月）	37%	44%	19%	0%
アフリカ州（12月）	60%	40%	0%	0%
南アフリカ州 （1月）	61%	38%	1%	0%

主体的・対話的な学びを意識し、各単元の学習の中でグループワークやペアワークを位置づけて実施した。このような学習をくり返し行うことを通して、グループワークで意見を考え、発表することがあまりできなかった生徒が減り、よくできる生徒が増えてきた。

しかし、③学習内容でわかったことや疑問をまとめる小レポートでは、資料2から生徒Aは、抽象的なまとめになっており、具体的な内容理解がどこまでできているのか判然としない。生徒Bは、単なる感想であり、書けていても学習内容の語句レベルの記述にとどまっている。中には、自分の意見を述べている生徒もいたが、多くは生徒Bのような生徒である。

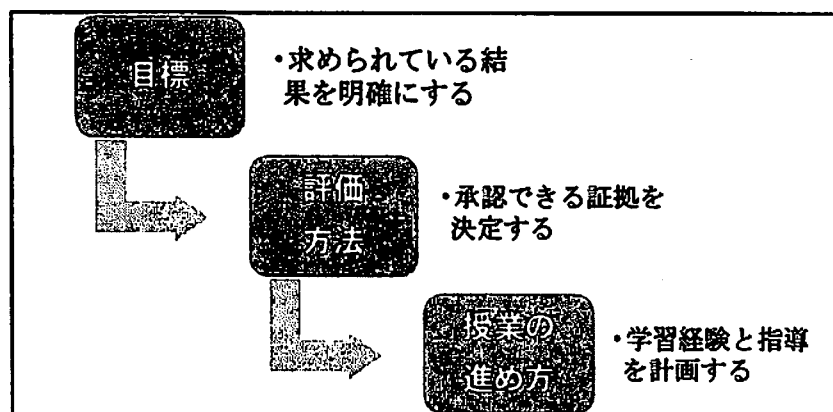
資料 2、③学習内容でわかったことや疑問をまとめる小レポートの記述内容と解釈

生徒	記述内容	解釈
生徒 A	<p><アフリカ州> 1 アフリカ州にはとても多くの人があること困っていることがあらためてわかりました。</p> <p><南アメリカ州> 2 アマゾンでは毎年どれくらいの新種の生物が発見されているのかが気になったので、調べてみたい。</p>	<p>生徒 A は、1 については学習した内容を抽象的にまとめている。2 については学習過程で生じた疑問を書いている。</p>
生徒 B	<p><アフリカ州> 1 アフリカ州のことがわかった。</p> <p><南アメリカ州> 2 発展していることがわかった。</p>	<p>生徒 B は、1 は、具体的に学んだことが書かれていない。2 は、学んだ事実を語句レベル書いている。</p>

●逆向き設計論とは

G ウィギンズとマクタイが『理解をもたらすカリキュラム設計 (1998 年)』として提案したもの。従来の順番に何を教えていくかを定める積み上げ型のカリキュラム設計ではなく、年度末、章末、単元末での生徒の姿 (何ができるようになるか) を明確にして、そこからさかのぼってカリキュラムをつくることで、生徒の力を効果的に伸ばすことができるという考え。ゴールを明確にした上で、評価方法を決め、学習者が何を学ぶか、どのように学ぶかを決定することで、授業者は年間を通して、単元を貫く問い (「本質的な問い」) を考えるようになる。また、従来のテストだけでなく、現実に即した形で身につけた知識、技能を関連付けて使いこなす「パフォーマンス課題」に取り組むことでさまざまなことに応用ができるまでに高められた知識や技能 (「永続的な理解」) が身につくとされる。

<逆向き設計論のイメージ>



●パフォーマンス課題のパターン（西岡加名恵氏による整理）

1、パーツ組み立て型（本提案）

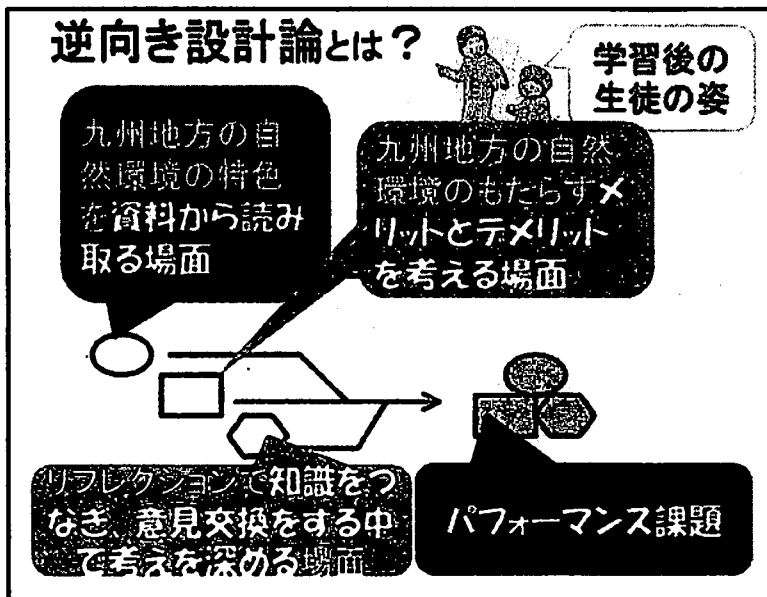
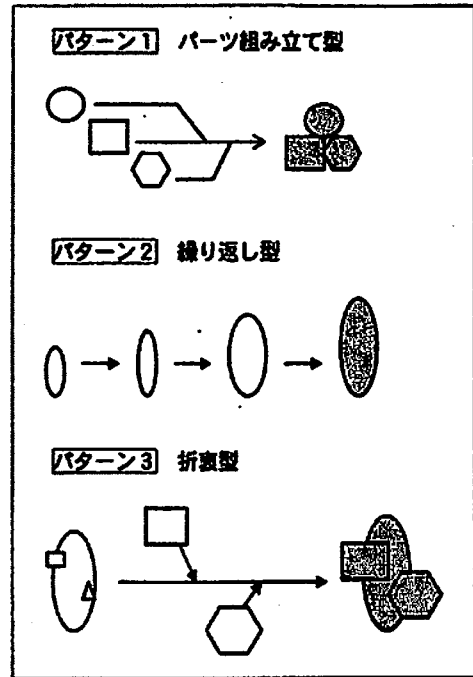
パフォーマンス課題に必要なパーツを徐々に身につけさせていき、最後にそれらを組み合わせて使いこなすことを求める。

2、くり返し型

単元の中で同じようなパフォーマンス課題に何度も取り組ませる。

3、折衷型

最初にパフォーマンス課題に取り組ませ、その上で必要な要素について洗練されていくような指導を行い、最後にパフォーマンス課題に取り組ませる。



●「リフレクション」とは

本来、臨床などの現場で自分の積んだ経験を「振り返る」こと。経験を意味づけ自分の在り方を考えることで同じような状況に直面した時によりよく対処する知や術を見出す活動のこと。今回は、学習内容の振り返り、学習方法の振り返り、学習者の取り組みや理解度の振り返りなどの総称として使っている。これらを通して、主体的な学び、思考力・判断力、表現力の育成、知識・技能の定着につながると言われている。

●ワークショップ型発表の流れ 「世界から見た日本の姿」(例)

指導内容	ねらい	学習活動
<p>1、ワークショップ型発表 クラスをA、B、Cの3つに分ける 例 発表 A 聞き手 B、C 「Aの人は発表をします。B、Cの人は聞き手です。分からないことや疑問に思ったことは発表者に積極的に質問しましょう。」 ※聞き手は、3人以上の発表を聞く。 ※発表グループを入れ替え、3セッション行う。</p>	<p>1、発表を通して多くの人に自分の考えを伝える。 自分の意見に対する反論や同意、疑問点に答えることで、考えを深める。</p>	<p>1、発表者と聞き手に分かれ、質問を考える。 ＜発表者＞ 書いたレポートをもとに自分の考えを聞き手に伝える。 ＜聞き手＞ 自分の考えと比較しながら聞き、発表に対する意見を伝え、疑問点を質問する。</p>
<p>2、振り返りメモ 「発表した人は、質問されたことや発表してわかったことなどをメモしましょう。」 「聞き手は、なるほどと思った発表や考えたことをメモしましょう。」</p>	<p>2、発表で考えたことや気づいたことを書き残すことで3や4につなげる。</p>	<p>2、発表が終わったら、友達の意見や疑問、発表した感想等をメモする。</p>
<p>3、3人グループでの振り返り 3人グループをつくる。 全体 「今日の発表を通して学んだことや疑問に思ったことは何ですか。」 「レポート作成や発表を振り返って、よかったことや次に気をつけることは何ですか。」 「さらに調べてみたいと思ったことはありますか。」 発展 「日本の解決すべき問題に優先順位をつけるとしたらどうなりますか。」</p>	<p>3、振り返りを共有する。 学習内容の振り返り 発表方法、レポート作成の振り返り 学習態度の振り返り</p>	<p>3、学習内容、学習態度等の振り返りをする。</p>
<p>4、「今日のリフレクションをふまえ、単元の振り返りを書きましょう。」</p>	<p>4、1～3をふまえ、本単元で学んだことをまとめる。</p>	<p>4、単元で学んだことを記述する。</p>

- ・具体的な学習内容をふまえた感想になっている。

今日の学習までをふりかえり、さらに気付いたことや疑問に思ったことや考えたこと

・熊本県水俣市では、排水とともに海に流したメチル水銀が魚に蓄積し、その魚を食べた人が水俣病になってしまった。だから、これからは、海を大切にしようと思った。環境モデル都市にするために、人々は、どれだけ努力したかが伝わった。

ふりかえりのポイント →M(学んだこと)、K(考えたこと)、I(生かすこと)

熊本県水俣市では、排水とともに海に流したメチル水銀が魚に蓄積し、その魚を食べた人が水俣病になってしまった。だから、これからは海を大切にしようと思った。環境モデル都市にするために人々はどれだけ努力したかがわかった。

<中国・四国地方>

- ・他の生徒の意見を聞くことで考え方が広がっている。

今日の学習までをふりかえり、さらに気付いたことや疑問に思ったことや考えたこと

過密化では、高架化・過疎化もいいと思ったが、都市を分散して人を各地に移動させるのがいいと思った。過疎化は、医療の建物をつくる(原校を)というのもあったけど、医療のバスにして、どこでも行けるようにするというのがいいと思った。ほかの県(香川県、鳥取県)についても調べたかった。

ふりかえりのポイント →M(学んだこと)、K(考えたこと)、I(生かすこと)

過密化では、高架化・過疎化もいいと思ったが、都市を分散して人を各地に移動させるのがいいと思った。過疎化は、医療の建物をつくる(廃校を利用)というのもあったけど、医療のバスにして、どこにも行けるようにするというのがいいと思った。他の県についても調べたかった。

—参考文献・資料—

西岡 加名恵『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』(明治図書、2008年)

三藤 あさみ『パフォーマンス評価にどう取り組むか』(日本標準、2010年)

田村 学 『深い学び』(東洋館、2018年)

千葉県教育委員会「思考し、表現する力を高める実践プログラム」(2008年)

(<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/documents/model.pdf>)

千葉県教育委員会「授業づくりガイドブック(改訂版)」(2015年)

(https://www.ice.or.jp/nc/shien/cs/guidebook/?action=cabinet_action_main_download&block_id=570&room_id=18&cabinet_id=36&file_id=2281&upload_id=16847)

千葉県教育委員会「資質・能力を育成するためにリーフレット」(2017年)

(https://www.ice.or.jp/nc/shien/cs/guidebook/?action=cabinet_action_main_download&block_id=570&room_id=18&cabinet_id=36&file_id=5723&upload_id=40086)

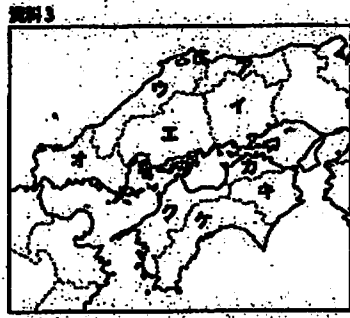
教科書P. 191~202

(1) 次の文にあてはまる県を資料3のA~Kから選び、それぞれ記号を書け。

① (E)
中国・四国地方で最も工業出荷額が多い。この県にある自動車工場は世界遺産に指定されている。

② (F)
土佐沖に面した平野でピーマンやトマトの栽培量がさかん。県土に占める森林面積の割合は全国一。

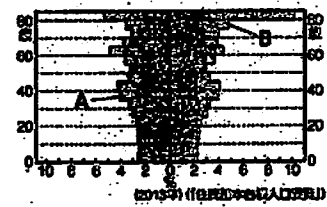
③ (G)
日本最大の砂丘を利用して、メロンやらっきょうの栽培がさかんである。



(2) 中国・四国地方で人口が集中している地域は、(④ 山陰・瀬戸内) 南四国) である。特にこの地方の福山などには製鉄所、水島などには、(⑤ 石油コンビナート) という工場がつくられ工業地域になっている。人口が一部の都市などに集中することを (⑥ 過密化) という。これにより、住宅不足や交通渋滞が発生している。これを解決するために、都市の再開発や線路の高架化などを進めている。

(3) 広島市は、中国・四国地方の (⑥ 地方中枢 都市) である。また、原爆の被害にあった都市という歴史があるため、(⑦ 不特定 都市) でもある。

(4) 資料は、広島市と高知県四万十町の人口構成を表したものである。高知県四万十町の人口構成を表したグラフは、(⑥ A・B) だと考えられる。なぜなら、四万十町は、過疎化が進み、65歳以上の人口が過半数を超える (⑧ 高齢 集落) だからだ。



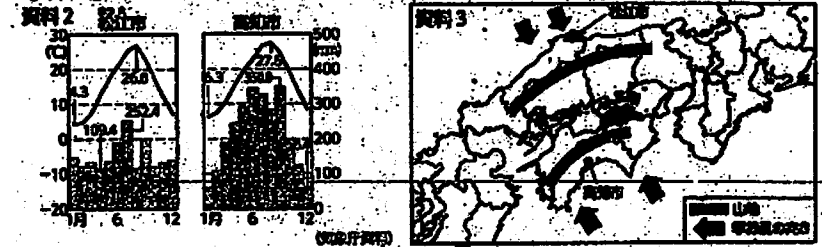
(5) 右の資料のように児島と坂出の通勤・通学者が増加した理由の1つは、(⑩ 明石海峡大橋・瀬戸大橋) ししまなみ海道) が開通したことにある。



(6) 右の資料のしまなみ海道・瀬戸大橋・明石海峡大橋を合わせて、(⑪ 瀬戸内海橋) という。また、この開通によって、大都市に人口が吸引せられる (⑫ トロワ) が発生した。



(7) 記述問題
香川県をふくむ瀬戸内地方で雨が少ない理由を、資料2・3を参考にして、「季節風」「山地」の語句を使って簡潔に説明せよ。



⑬ 二つの山地ではとまられていて、季節が山で止められ、瀬戸内に届かぬから

~学習の自己評価~

当てはまるところに○をしよう。

12/13

質問	よくできた	だいたいできた	あまりできなかった	全然できなかった
授業中やグループワークで自分の意見を考え、発表できた。		○		
宿題や教科書、ノート、地図帳資料集などを忘れなかった。	○			
中国・四国の人口、産業、環境について知っていることやわかることが増えた。	○			
授業中の先生の話を説明を理解できた。(授業中に寝ていません)		○		

中国・四国地方の学習をふりかえり、学んだこと、今後にかすことを書こう!

⑭ 本州四国連絡橋が完成したことにより、フェリスター現象が発生し、過疎化が激しくなりました。大変なことです。これからはどうなるかを考えていこうと思った

近畿地方について知っていることがあれば、書いて下さい。(キーワードOK)

ふりかえりのポイント—M (学んだこと) K (考えたこと) I (生かすこと)

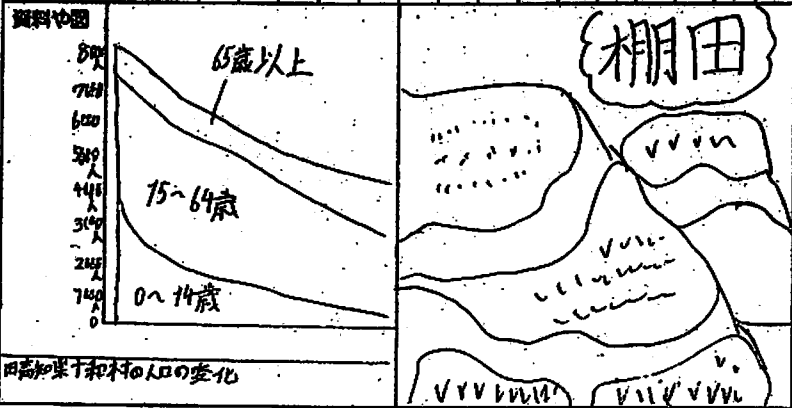
リフレクションシート (中国・四国地方のパフォーマンス課題) レポート

2年 中国 姓名 XXXXXXXXXX

あなたは、高知県の「過疎化・高齢化」対策委員会のメンバーに任命されました。

「過疎化・高齢化」化の問題をどのように解決していくか、具体的な提案や報告書を書きましょう。

私は、高知県の過疎化について、解決策を考
えていきたいと思えます。理由は、他の都市
にくらべて、過疎化が進んでいて危ないと思
ったからです。これを解決するために、私
は地域ブランドや観光スポットを造りたいと
思います。理由は、地域ブランドをつくれば
人を寄せ、観光客が来るからこれだと思
います。観光スポットをつくれば、(遠かよければ)ネ
ットで拡散してしまえるかもしれないと思
ったからです。また、ここでは高齢化が進んで
いるので、廃校を施設として利用するなど、
そういう施設を増やしていこうと思いま



※足りない場合は、柴田まで。

- 自分の企画書を自己評価してみよう！
- Q1. 学んだことを生かした内容になっていますか？ (YES/NO)
- Q2. いろいろな視点で考えた内容になっていますか？ (YES/NO)
- Q3. 資料などをもとに、なぜその県(地域)にしたのか理由が書けていますか？ (YES/NO)

ワークショップ発表の流れ

1. 発表準備
2. ワークショップ発表
発表者、聞き手に分かれる。
3. 発表のふりかえり
4. ふりかえりの記入とまとめ

- 発表、話し合いのふりかえり (メモ)
- ・廃校の再利用して介護施設にする
 - ・果物狩りやサウナなどでもっと活用
 - ・道路の整備、港の再開発で、住宅難の解消
 - ・軽い足跡現象を減らす
 - ・高齢者イベントを開催する！

評価のポイント (ルーブリック)

5 (大変よくできました)	3、4の点を達成しており、 ・学んだことをあまえて、2つ以上の視点で述べている。 ・資料をもとに理由を示し、具体的に述べている。 ・オリジナリティ (独創性) や工夫がある。
4 (よくできました)	・学んだことを他のことと結びつけて自分の思いや考えを述べている。
3 (合格)	・学んだことを生かして書いている。
2 (もう少し頑張ろう)	・学んだことと関わりがないことが書かれている。
1 (まだまだです)	・文章として成立していない、書いていない。

※学んだこと…中国・四国地方の特色、魅力や課題、人々の暮らしの工夫などのこと

今日の学習までをふりかえり、さらに気付いたことや疑問に思ったことや考えたこと

金のことか、ち、聞いてイライラした。(大変だった) 発表
次は完璧に答えられるように、沢山の勉強しようと思っ
中国地方では、中国四国連絡橋が出来た影響で、広島市などで
過疎化が起きていることがわかった。また、四国の山地などでは、
山こけな過疎化が進んでいることがわかった。これからは、も
っと勉強して、ちゃんと説明できるようにしようと思っ
ふりかえりのポイント →M (学んだこと)、K (考えたこと)、I (生かすこと)